



かわら版



- 鼓動 「木育」について 1
石川県森林組合連合会 木材販売課 岡崎 早貴江
- 令和元年度少年の主張石川県大会 2
- 第46回太陽と緑に親しむ健民祭 7
- 小学生ツバメ国際キャンプ in 韓国 11
- 第48回ふるさとのツバメ総調査結果 15
- 健民運動活動紹介・健民運動カレンダー 16
- 薫風 ペタンク・ブール競技の変遷 17
石川県ペタンク・ブール協会 会長 南 進
- 「あいむ」だより 18

毎月7日は「健康の日」です。

～ 歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう ～

鼓動

石川県森林組合連合会
木材販売課 岡崎 早貴江

「木育」について

石川県森林組合連合会は、県内に4つある森林組合を会員として組織されており、森林組合の組織運営に関する指導事業、山の手入れを行う森林整備事業、地域の森林で生産された木材の流通に関する販売事業、業務に必要な物資の供給を行う購買事業などを主な事業として行っています。

現在、林業の現場では地理空間情報やICT等の先端技術を活用した森林資源量の把握を行うなど、安全で効率的な森林施業や需要に応じた木材の安定供給を行うための様々な取組が進んでいます。こういった取組とあわせて、私たちが県民の皆さんに森林の大切さや木材の価値を改めて知ってもらうために取り組んでいるのが「木育」です。



「木育」は「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取組として、平成16年に北海道で始まった活動です。私たちの生活の中では、住宅や家具、紙といった木から作られたものが多く使われています。また、川へと流れる水が田畑を潤し、森で作られた栄養が海まで流れることで良質なプランクトンが発生し漁場を豊かにしています。しかしながら、これらのことから木材やそれらが育った森林のことを想像できる人は多くはありません。

日本は元々「木の文化の国」と言われ、建築、生活道具、工芸品など生活文化や様式を代表する多くのものが木製品でした。しかし、経済の発展を推し進める中、効率重視、利便性の追求などにより生活環境や自然環境にも大きな変化がもたらされ、人と人、人と自然、モノと自然のつながりが希薄になり、社会や自然に様々な綻びが生じています。

「木育」は人と森林、木材との繋がりに目を向け、豊かな人づくり、社会づくりを行っていく取組です。子どもを始めとするすべての人々が、木を身近で使っていくことを通じて、人と木や森林との関わりを自ら考えていくことのできる豊かな心を育てていく活動です。お子さんは遊具などでの「遊び」という体験を通じて五感で感じ、大人はその意義を学び、理解し子どもたちに伝えていくために行動していくことが「木育」と言えます。



昨年6月、石川県では「県産材利用促進条例」が制定され、毎年10月が「県産材利用推進月間」に定められました。県内の森林組合においても様々な活動が行われます。私達、石川県森林組合連合会も林業に携わる立場から、今後も木育活動を通じ、県民の皆さんに人と森林の関わりや県産材を使っていくことの大切さを伝えていきたいと思えます。

◇ 令和元年度少年の主張石川県大会

8月31日（土）に石川県青少年総合研修センターで「少年の主張石川県大会」が開催されました。この大会は、昭和54年の「国際児童年」を契機に開催してから今年で41回目となります。

日常生活の中での体験や考えを自分自身の言葉でまとめ、それを広く発表する機会を中学生に提供して、中学生世代における社会参加意識の醸成を図り、また、多くの大人に現代の中学生への理解を深めてもらう大会となっています。

加賀・金沢・石川中央・能登の4地区大会で選ばれた16人の中学生が、自分の考えを力強く堂々と訴えかけました。審査の結果、最優秀賞には、加賀市立山中中学校3年、新家彩桃さんの「ひと滴の力」、優秀賞には、七尾市立七尾中学校3年、長谷さくらさんの「笑顔が見たい」と小松市立御幸中学校3年、木崎晏菜さんの「ヒロシマ - わたし - つながる平和への思い」が選ばれました。次頁に最優秀賞に選ばれた新家彩桃さんの原稿を紹介させていただきます。



【正木明大会委員長挨拶】



【出場者と審査委員、大会役員の皆さん】

★最優秀賞



「ひと滴の力」 加賀市立山中中学校3年 新家 彩桃さん

日本で一番長い川は信濃川。流域面積が一番なのは利根川。では、水面が見えなくなるほど、無数の遺体が浮いたのは何川ですか？

今年の五月、私は原爆の被害に遭われた方から、貴重な話をお聴きするため、修学旅行で広島に行きました。事前にある程度の知識をもって臨んだはずなのに、そこでお聞きした被害の惨状や凄絶な内容には、言葉を失いました。それまで知ることのなかった、被爆者の悲しみや怒り、無念さがそこにはありました。

証言者の川崎宏明さんは、当時小学校一年生でしたが、その時の様子を克明に覚えていらっしゃり、説明もとてもわかりやすいものでした。原爆の被害が及ぶ範囲を、単なる数字で表すのではなく、私たちの住む町の大きさをたとえてくださったことで、しっかりイメージが持てました。また、「石川県は比較的空襲の被害が少なかったけれど、二万数千人が戦争で亡くなりました。」とも教えていただき、広島県民の川崎さんの方が、石川県のことをよくご存じて、この講演のために、よく準備をされていたことに驚きました。と同時に、川崎さんの思いの強さを感じました。「この子たちに、今のうちに、できるだけのことを伝えよう。少しでも多くの子に平和の大切さを理解してもらおう。」という、必死の願いと焦りのようなものでした。

川崎さんは現在八十一歳で、この先、何年も講演を続けていくことはできません。だから、今しかできない活動を、懸命にされているのだと思います。

先日、「戦争は二度としちゃいかん。」という「魂の叫び」を語ってくれた私の曾祖母が九十六歳で他界しました。また一人私たちは、戦争の悲惨さを伝えてくれる人を失ったのです。これまで私は、今しか聴けない戦争経験者の話にしっかり耳を傾けることが大切です、と訴えてきましたが、川崎さんの講演の途中から、これはもうただ聴いて終わりだけではいけない、という思いに駆られました。近い将来、既に戦争経験者の肉声を聴けなくなった世代に、平和への強い思いを引き継いでいくことが、現在の私たちに与えられた使命ではないか。またそうすることが、既に亡くなられた方々への供養にもなるのではないか、という思いです。

でも、戦争を知らない私たちに、その使命は務まるのか。戦争体験者の必死の訴えを本当に受け継ぐことができるのか。そんな悩みの中で講演は終わり、その後、

原爆資料館の見学となりました。本当は、持ち主が乗り回して遊ぶはずだった三輪車。本当は、お昼に子どものお腹を満たしてくれたはずの黒焦げになったお弁当。いったい何千度の熱線がガラスの瓶を溶かすのでしょうか。いったいどれほどの光の強さが、人の影を地面に焼き付けるのでしょうか。それら物言わぬはずの展示物は、何を語るよりも雄弁に、当時の状況や苦しみ、悲しみを語っていました。ただ静かにおいてあるだけなのに、こんなにも伝える力がある。そこに、先ほど抱いていた悩みを解決してくれる糸口があると気づきました。何も雄弁に語り継ぐ必要はなく、「話」を聴いて感じたことを率直に語ったり、戦争の足音が聞こえるものには決して賛同しない、という姿勢を示したりするだけでも、十分使命を果たしていると言えないでしょうか。

川崎さんは講演の最後にこうおっしゃいました。「はじめに述べた信濃川も利根川も、多くの被爆者が水を求めて亡くなった元安川も、その源は、岩から滴り落ちるひと滴から始まっています。それは、『平和』という途方もない大きな川でも同じこと。たったひと滴でも、この世から戦争をなくす力を持っているのです。そのひと滴に、みんながなってほしい。」と。

川は世界をつなぐ海に注がれます。戦後七十四年、平和の川は令和という時代になっても脈々と続いています。この流れを決して途絶えさせてはいけません。他の誰かではなく、私と、あなたでひと滴の力となり、平和な世界をつないでいきましょう。

発表終了後、堂坂雅光審査委員長（石川県市町教育委員会連合会副会長）から、審査結果が発表され、正木明大会委員長から最優秀賞、優秀賞、奨励賞の賞状と副賞が授与されました。引き続き、嶋耕二審査委員（石川県教育委員会学校指導課担当課長）から講評をいただき、最後に青木美紀大会副委員長（健民運動推進本部事務局長）の挨拶で閉会しました。



【成績発表（堂坂審査委員長）】



【講評（嶋審査委員）】

★審査委員講評 嶋 耕二（学校指導課担当課長）

16名の皆さん、どの主張も大変素晴らしいもので、興味を持ってしっかりかせていただきました。ありがとうございます。

皆さんは聞き慣れたことかもしれませんが、今、すでに社会はグローバル化、情報化が進み、今日、その変化が予想をはるかに超えた速さで進んでいます。

グローバル化は、物やお金、情報が世界を行き交うだけではなく、様々な人、文化、考え方が行き交う、まさに多様との共存・共生です。

そのような状況の中で、問題を解決する答えが見い出せない、または、答えが一つではない状況がすでに国際社会では起こっており、経験や知識が豊かな大人でも、なかなか解決することができないものがあります。

このような多様な文化や価値観などを持つ人々との間にある課題を解決するための一つに「対話」があります。これは、相手の意図や考え方を的確に理解し、自ら考え、理由や根拠を加えて論理的に説明したり、反論したり、相手を説得したりすることです。

この対話には、深い思考が必要となります。年齢のまだ小さな子供であれば、夢や理想を述べるかもしれませんが、中学生である皆さんは、解決すべき課題が起こった原因や改善できていない背景についての情報を集め、柔軟な発想と鋭い感覚で思考することにより、課題を解決するための自分の考えを主張することができるのではないのでしょうか。

さて、この「少年の主張石川県大会」の発表内容は、

- ・社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案
- ・家庭、学校生活、社会及び身の回りや友達との関わり
- ・少年の問題行動、大人や社会の出来事への意見や感想、提言

であり、

平和について、自分の意見を持つこと、友情について、多様性を認め合うこと、町の活性化、自分の将来、社会への提言、命の大切さなどについて発表がありました。

皆さんは、この県大会に至るまでに、話しの展開や表現の仕方を工夫するとともに、聞く人の心に響くよう、何度も繰り返し練習をしてきたことと思います。どの発表も中学生らしくさわやかな語り口調の中に、その人らしさが表れ、思いが明確に、しかも豊かに表現されていました。

本日の発表は、すべて皆さんの素敵な主張であります。この大会が終わったら、自分の発表を振り返り、さらに深め、高い志を持って、それぞれの夢や希望の実現に向けて歩まれることを期待しています。

本日は、貴重な発表を聞かせていただき、ありがとうございました。この大会で発表されたみなさん、ご支援いただいた先生方やご家族のみなさん、さらには、この大会の開催にご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

★県大会に出場された皆さん

賞	中学校名	学年	氏名	タイトル
最優秀賞	加賀市立山中中学校	3	新家 彩桃	ひと滴の力
優秀賞	七尾市立七尾中学校	3	長谷 さくら	笑顔が見たい
	小松市立御幸中学校	3	木崎 晏菜	ヒロシマ－わたし－つながる平和への思い
奨励賞	かほく市立高松中学校	3	上坂 陽奈	命のバトンはあなたの手
	かほく市立河北台中学校	3	越野 藍	自分の武器
	金沢市立野田中学校	3	岡本 杏里沙	愛のカタチ
	中能登町立中能登中学校	3	上野 菜湖	「違う」は「ダメ」なことですか？
	七尾市立能登香島中学校	3	竹中 乃愛	未来を決める大きな選択
	金沢市立金石中学校	3	松本 梗耶	憧れの姿
	白山市立北星中学校	3	平木 千咲子	日本人らしい譲り合い
	金沢市立鳴和中学校	3	岩見 瑚子	自分がつくる物語
	七尾市立七尾東部中学校	3	黒丸 文月	便利はほどよく丁寧に
	小松市立南部中学校	3	山本 理央	本当の友だち
	白山市立笠間中学校	3	嶋口 穂乃佳	「仲間」とは
	小松市立芦城中学校	2	岩崎 響	伝えることから始めよう
金沢市立紫錦台中学校	3	岡田 悠芽	You can make a big difference with one action	

11月は「子供・若者育成支援強調月間」です ～輝く未来 育て支えて 見守って～

子供・若者は、親等の家族にとっても、社会にとっても、大きな可能性を秘めたかけがえのない存在であり、全ての子供・若者が、自己肯定感を育み、自己を確立し、社会との関わりを自覚し、自立した個人として健やかに成長するとともに、明るい未来を切り拓いていくことが期待されている。

政府において、平成28年2月に「子供・若者育成支援推進大綱」を策定し、その中で、子供・若者の育成支援を、家庭を中心として、行政、学校、企業、地域等、社会全体で取り組むべき課題と位置付け、全ての子供・若者が健やかに成長し、全ての若者が自立・活躍できる社会の実現を目指すこととしている。

しかしながら、子供・若者に関しては、依然、支援を必要とするニート、ひきこもり、不登校などの社会生活を円滑に営む上で困難を有する子供・若者の問題や、少年非行、いじめの問題、児童虐待、児童ポルノや児童買春をはじめ子供が被害者となる事件など社会全体で取り組まなければならない問題がある。これらの多様で複合的な問題の解決には、行政、子供・若者の育成支援に関わる諸団体等が専門の垣根を越えて連携協力するとともに、地域住民一人一人の取組・参加を促すことにより、子供・若者を孤立させず、地域全体で支えていく社会を築くことが重要である。（内閣府 令和元年度「子供・若者育成支援強調月間」実施要綱 R1.10.11より抜粋）

◇第46回太陽と緑に親しむ健民祭

令和元年8月31日（土）から10月20日（日）の間、西部緑地公園陸上競技場を中心に、総合開会式を含めて14の種目で開催を計画しておりましたが、9月23日（月・祝）の総合開会式及び4つの種目別大会は、台風17号が本県に接近したため、安全を第一に考え中止といたしました。

以下に、他の種目別大会についての実施状況を報告します。

○石川県スポーツ少年団サッカー交流大会

8月31日（土）から9月16日（月・祝）までの3日間、内灘砂丘の絶景を見渡せる内灘町サッカー競技場を主会場に、42チーム、約600人のサッカー少年が集まり熱戦が繰り広げられました。今年度は、昨年3位に終わったFC笠間が優勝旗を手に入りました。

【成績】

優勝	FC笠間
準優勝	蕪城SSS
第3位	北陽SSS
敢闘賞	FC.TONジュニア



【左：入賞した4チームの皆さん】



【右：優勝旗を受け取るFC笠間の選手】

○マラソンに挑戦する会2019

9月16日（月・祝）、今年度も全国各地から782人の市民ランナーが西部緑地公園陸上競技場に集結しました。開会式前の競技場内では、リラックスした雰囲気の中、あちらこちらで思い思いにウォーミングアップする参加者の姿が見られました。開会式



【スタート直前の様子】

では、野村会長の挨拶が終わり、いよいよ山野之義金沢市長がスターターピストルを手にスタートライン付近に立たれると、ランナーたちの間には一瞬緊張が走りました。参加者たちはスタートの合図とともに自分の体力に合わせて完走を目指し、陸上競技場のゲートを後にしました。今回で3回目となる陸上競技場を発着するコース設定は、駐車場や更衣室、シャワー等が整っているなど、今年も参加者からはたいへん好評でした。また、給水や監察、記録などの係員の方々には、今年も大変お世話になりました。



【スタート直後の様子】



【犀川緑地（自転車道）を走るランナーたち】

○リズムダンス講習会

9月25日（水）、小松市民センターにおいて石川県リズムダンス協会のリズムダンス講習会が開催されました。今回で2回目となる小松開催には、今年も能登地区など県内各地から250人が参加しました。当協会は近年、県内の各地域で年間100回以上の主催事業や他団体との共催事業に取り組みされており、これらの実績がリズムダンスの普及につながっているようです。



【定番曲でのウォーミングアップ】



【新曲でのフォークダンスの練習】

○ニュースポーツふれあい体験

9月29日（日）、いしかわ子ども交流センターでニュースポーツふれあい体験が開催されました。当センターでの開催は初めてでしたが、子どもたちや親子連れが安心して足を運べる施設ということもあり、また、当日はセンターの協力もいただいて実施することができ、94名の参加がありました。

今回は、2020年東京パラリンピックの正式種目であるボッチャの他、カローリング（カーリングの床上バージョン）など計5種目の体験コーナーを用意しました。



【受付にはスポーツマイレージのQRコード】



【親子でカラーリングに挑戦】



【沢山の親子連れがボッチャを体験しました】



【スコットボールに挑戦】

○健民野球大会

10月6日（日）に県立野球場で石川県早朝野球選手権大会と金沢日曜野球連盟選手権大会が開催されました。早朝野球選手権大会では決勝戦が行われ、羽咋市のC-MAXが野々市市の高桑美術印刷を2対1で破り、2年ぶり3度目の優勝を果たしました。金沢日曜野球連盟選手権大会では準決勝が行われ、決勝戦は10月13日（日）に安原球場で行われる予定です。

○石川県健康クラブ交歓大会

10月10日（木）、34クラブから約1,700人がいしかわ総合スポーツセンターに集い、日頃の練習の成果を披露しました。開会式では本部長 谷本正憲県知事が励ましの言葉を述べ、金沢市長代理 西川和昭保健局長から歓迎の言葉をいただきました。また、池上清さんをはじめ37名の方々が健康クラブ功労者表彰を受けました。



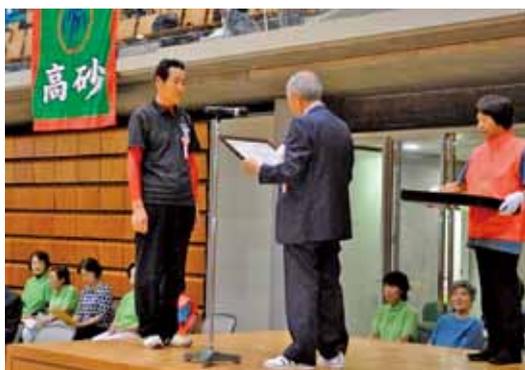
【左：開会挨拶（上瀧会長）】



【中央：励ましの言葉（谷本知事）】



【右：歓迎の言葉（西川局長）】



【左：功労者表彰代表の池上清さん 右：謝辞代表の米澤喜久子さんと被表彰者の皆さん】



【準備運動は定番の全体歌唱「石川県民の歌」と準備体操「健民さわやか体操」をしました】



【今年のリズムダンスは、1700人が2グループに分かれて、「瀬戸の花嫁」を踊りました】



【松任スポーツクラブの皆さんによる発表曲「糸」の演技】

◇ 小学生ツバメ国際キャンプ in 韓国

今年で6回目となる小学生ツバメ国際キャンプは、今回韓国で開催されました。石川県からは、8月20日（火）から8月23日（金）までの4日間の日程で、健民運動推進本部事務局員2名に児童10名、引率教員5名の総勢17名が参加しました。

《参加校》		
【石川県】 5校10名		
金沢市立田上小学校	珠洲市立蛸島小学校	加賀市立山代小学校
内灘町立鶴ヶ丘小学校	能登町立松波小学校	
【韓国】 児童17名	【台湾】 児童12名	

○日程

8月20日（火）	J R 金沢駅～中部国際空港～金海(キメ)国際空港、宿泊先(ボンハトレーニングセンター)にてオリエンテーション
8月21日（水）	開会式、ツバメ調査発表交流会①、生物多様性学習(水田に生育する生物観察)、盧 武鉉(ノ・ムヒョン)元大統領邸の見学、韓国伝統文化体験学習(仮面舞踊)、韓国のツバメの生態学講義、ネイチャーガイドの解説を聞きながら夜道の散策とバーベキュー
8月22日（木）	ツバメ調査発表交流会②、韓国伝統文化学習(国立金海博物館、金海民族博物館見学)、夕食会と送別会
8月23日（金）	金海国際空港～中部国際空港～ J R 金沢駅バス駐車場

○8月20日（火）キャンプ1日目

金海国際空港に到着後、ラムサール環境財団の職員1名と通訳2名の方々に迎えられ、記念写真を撮影してもらいました。



【入国手続き完了後の金海国際空港での1枚】

ヒョン)元大統領邸まで徒歩で移動し、見学しました。現在も多くの見学者が訪れる観光スポットとなっているとのことでした。さらに、センターに戻って、韓国の伝統文化学習として仮面舞踊を体験しました。

夕食後には、ウポ生態分院教師のキム・チョロク氏が韓国のツバメの生態について興味深い話をされました。韓国のツバメにジオロケーターという装置をつけて放し、再捕獲によって移動経路を調査した結果、韓国のツバメはフィリピンを経てインドネシアで越冬し、繁殖のために韓国へ戻ってくるとのことでした。日本のツバメについても十分に当てはまるだろうとのことでした。この日は、地元のテレビ局(KNN)のカメラが入りましたが、子どもたちは普段通りの様子でツバメの話に聴き入っていました。この内容は、翌朝の韓国のニュースで放映されました。

この日はこの後、さらに小雨の中、初秋の虫の歌声とネイチャーガイドの解説を聞きながら夜道を散策し、移動先で串焼き等を楽しむという、かなりタイトなプログラムとなりましたが、子どもたちは大変元気でした。



【子どもたちも先生も夢中】



【夜道散策後の串焼き】

○8月22日(木) キャンプ3日目

午前にはツバメ調査結果発表を行い、加賀市立山代小学校、内灘町立鶴ヶ丘小学校、能登町立松波小学校が発表しました。開会前には、他国の子どもたちが各テーブルに自国のお菓子を配って回ったり、休憩時に一緒に折り紙でツバメを折ったりするなど、交流する姿があちこちで見られました。午後は昌原コンベンションセンターから金海市へ移動して、国立金海博物館と金海民族博物館を見学しました。国立金海博物館では韓国の歴史上、鉄の国と呼ばれた加耶(カヤ)時代の歴史や漆文化の特別展示を見学しました。民族博物館では韓国の昔の生活様式や民族品などを見学したあと、先の「伽耶」を建国した首露王(スロワン)の陵墓(スロワンヌン)を見学しました。



【松波小学校の発表】



【国立金海博物館】



【首露王陵（スロワンヌン）前で記念撮影】



【子どもたちの交流会】

韓国での最後の夕食はビュッフェ形式の円卓を囲んでの交流となりました。ラムサール環境財団のリー・ゲンソン代表理事ほか、関係団体の幹部も出席されて、お土産品の交換や写真撮影などが和やかな雰囲気の中で行われました。子どもたちの交流会は、3か国混合で4チームに分かれてゲームをしたり、お国ごとの出し物をするなど大変盛り上がりました。日本の子どもたちは「ツバメの歌」を合唱しました。



【「ツバメの歌」を合唱中】

○8月23日（金）キャンプ4日目

朝、朝食会場へ行くと、慶尚南道を代表する新聞の一つ、慶南(キョンナム)新聞の朝刊が机の上に置かれていました。ようやく使い慣れてきたスマートフォンの翻訳アプリのお世話になると、見出しには「都内小学生たち、台湾・日本の友達と多くの研究をしました」と書かれていました。

午前9時に宿泊地を出発し、バスで金海国際空港に向かいました。期間中、大変お世話になった二人の通訳（イムさんとベクさん）とラムサール環境財団スタッフの一人が空港まで同行して下さったお陰で搭乗手続き等がスムーズに進み、参加者たちは心行くまでお土産を買い求めることができました。

キャンプ中、体調を崩す参加者もなく、全員無事にほぼ定刻通りJR金沢駅バス駐車場に帰着し解散しました。



【慶南新聞での掲載記事 現地 8. 23 付け】

◇第48回ふるさとのツバメ総調査結果

愛鳥週間の令和元年5月10日から16日までの間に、県内の全公立小学校・義務教育学校201校の6年生を中心とする児童約1万1千人によって行われた調査結果は、下記のとおりです。

この調査は、ふるさとの環境を見つめ、自然を愛護する心を育み、生き物への関心を高める機会となることをねらいとして、昭和47年から実施しています。



【調査結果概要】

(1) 成鳥確認数 9, 295羽 (前年比 △520羽、△5.3%)

→ 成鳥確認数：調査時に児童が巣の付近や、電線などに止まっているツバメを目視確認できた数。(飛んでいるツバメは数えない。)

(2) 使用中の巣の数 9, 013個 (前年比 △510個、△5.4%)

(3) 考察

ツバメが生息するには、エサとなる虫、巣作りの泥、巣を作る場所の環境が整っていることが必要ですが、近年、そうした条件の悪化が強まっているため、ツバメを確認する機会が減ったのではないかと推測されます。

特に、巣作りの場として適している住宅以外の建物(車庫、納屋等)で巣の確認数が減少している理由として、防犯意識の高まりなどで戸締りをする車庫や納屋が増えるなど、受け入れる側の意識の変化、生活様式の変化などが関係している可能性が考えられます。

(4) 調査に参加した児童の感想

- ・今回初めて自分が住んでいる地域のツバメを調べて、普段は普通に生活をしているとツバメをあまり見ないけど、探してみるとツバメがたくさんいたのでびっくりしました。ツバメのヒナは巣立っていくけど、また、自分の地域に戻って来てほしいです。
- ・私はツバメ調査を通して、ツバメが地域の方々に思いやりの気持ちを持って受け入れられていると感じました。だんだんツバメの巣の数も減ってきているけれど、私の家にツバメがやって来たら温かく見守りたいと思います。



【棒の先に鏡を付けた巣の中を観察】



【カラス除けのためのキラキラモール】

◇ 健民運動活動紹介

美しい石川を歩く（第10回）～木場潟白山眺望コース～

10月11日（金）、午後1時、ウォーキングには程よい曇り空の下、木場潟公園中央園地に参加者33名が集合しました。開会式では、主催者代表の高橋正人幹事の挨拶に続き、木場潟公園協会の前川事務局長から公園についての解説がありました。午後1時30分、自分の体調と体力に合ったウォーキングでの完歩を目指して出発しました。

今回のコースは、白山の眺望と木場潟の豊かな自然を満喫できるウォーキングコースとして、参加者からもたいへん好評でした。



◇ 11月・12月の健民運動カレンダー

R1.10.11現在

11/3(日)	第39回北陸放送旗・協会長杯石川県ゲートボール選手権大会 兼第35回全国選抜ゲートボール大会石川県大会 会場：中能登町スポーツセンターろくせい 主催：石川県ゲートボール協会
11/3(日)	子どもの夢実現サポート事業（夢の実現地域発表会） 会場：小松市立中海小学校（小松市） 主催：中海小学校5年1組 共催：石川県健民運動推進本部
11/13(水) ～28(木)	ふるさとづくり作品展 （ツバメ調査作品コンクール、川柳コンクール、花いっぱいコンクール） 会場：県庁行政庁舎 19階展望ロビー 主催：石川県健民運動推進本部
11/17(日)	ふるさとづくり表彰式・花いっぴいのつどい 会場：県庁行政庁舎 19階展望ロビー（金沢市） 主催：石川県健民運動推進本部
11/19(火)	令和元年度青少年ボランティア賞表彰式 会場：県庁行政庁舎 特別会議室（金沢市） 主催：石川県健民運動推進本部
11/25(月) ～26(火)	子供・若者育成支援のための地域連携推進事業（中央研修大会） 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都） 主催：内閣府
12/8(日)	子どもの夢実現サポート事業（夢の実現地域発表会） 会場：いしかわ子ども交流センター（金沢市） 主催：もてなしこどもマーケット 共催：石川県健民運動推進本部
12/15(日)	子どもの夢実現サポート事業（夢の実現地域発表会） 会場：コスモアイル羽咋（羽咋市） 主催：はくいLEGO部 共催：石川県健民運動推進本部

～ペタンク・ブール競技の変遷～

ペタンク・ブールは1910年（明治43年）、南フランスの港町ラ・シオタで生まれたボールスポーツです。

ペタンク・ブールが親しまれる理由は、いつでも、どこでも、少しのスペースで気軽にプレーできるところにあるでしょう。たった一球で形勢を有利にしたり、大量得点を取ったりするところにゲームの面白さがあります。そのためには集中力を必要とし、巧妙な戦略や高度な技術を身につけなければなりません。思い通りの投球ができたり、作戦が的中したりした時には、この上ない爽快感があるものです。

このペタンク・ブールが日本に入ったのは49年前の1970年（昭和45年）で、来年2020年（令和2年）で協会設立50周年となるため、この式典が富山県で開催される日本ペタンク選手権の会場で実施されます。現在では47都道府県全てに加盟団体が組織されて、年間500を超える大会が全国各地で開催され、10万人を超える国民が愛好する競技に成長してきております。石川県でも2000年（平成12年）に全国スポーツレクリエーション祭



が本県で開催されたのを契機として、2002年（平成14年）に愛好者により協会が結成されました。あれから19年間、各市町の大会や県の大会が開催され、平成21年から25年までの5年間は石川県民体育大会のオープン競技として実施され、2014年（平成26年）から県体の正式種目として参加が認められました。現在では、県下

9市町にペタンク・ブール支部が結成され、これからは入会していない市町の加入と普及活動に力を入れて行きたいと考えております。その間、2016年（平成28年）に北信越ブロック大会を志賀町で、2017年（平成29年）に北信越ブロックベテラン大会を白山市で開催しました。本協会大会行事では、石川県が主催する県民体育大会をはじめ4大会、本協会主催の大会が年間5大会、北信越大会、この他総会1回、



理事会4回、諸会議、講演会、講習会、広報活動、交流会等、協会員の皆様方の積極的な参加があり喜んでおります。本年度県協会へ登録された方が183名おられます。この他愛好者を入れると200名を数えます。これからも本協会は中味の充実した、参加して良かったと思う協会、会員との交流にも楽しさがある協会を目指したいと思っております。

『あいむ』だより



収集物（10月分）＜使用済み切手など＞

石川県（地域振興課、空港企画課、県民交流課、スポーツ振興課、長寿社会課、少子化対策監室、廃棄物対策課、道路建設課、河川課、砂防課）、石川県観光連盟、匿名の方 計12件
ご協力ありがとうございました！

ご提供いただきました使用済み切手、書き損じハガキにつきましては、さまざまな支援を必要としている人々に役立てていただいております。ぜひお寄せください。

企業の皆さん、NPO・ボランティア団体に備品を提供しませんか？

企業×NPO物品マッチングシステム これDO？



NPOが求める備品について企業の皆さんから提供を受け、「あいむ」がその仲介を行うことにより、NPOの公益活動と企業の皆さんの社会貢献活動を支援します！

詳しくはこちら→ <http://www.ishikawa-npo.jp/koredo/>

あいむホームページに掲載します

あいむホームページの「イベント情報」では、NPO・ボランティア関係団体のみなさんからいただいたチラシを掲載しております！

イベント開催やボランティア募集など皆さんからの「チラシ・パンフレット」をお待ちしております！

<http://www.ishikawa-npo.jp/event/index.html>



石川県NPO活動支援センター（あいむ）

〒920-0961 金沢市香林坊2丁目4番30号 香林坊ラモーダ7階
TEL:076-223-9558 FAX:076-223-9559

<http://www.ishikawa-npo.jp>

会議・打合せ等に「あいむ」をご利用ください！（会議室使用料無料）

- ・お問合せ、ご予約は上記「石川県NPO活動支援センター（あいむ）」まで
- 《9:00～22:00（土、日曜日は17:00まで、月曜日・祝日は休館）》
- ・香林坊地下駐車場をご利用ください。駐車料金を助成しています。



毎月第3日曜日は「家庭の日」です
～ 家族とのふれあいを大切にしましょう ～



毎月7日は「健康の日」です。
～ 歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう ～



発行：石川県健民運動推進本部

〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
石川県県民交流課内 健民運動推進本部

TEL 076-225-1366
FAX 076-225-1363

インターネット

E-mail





健民運動

kenmin-i @pref.ishikawa.lg.j

kenmin_undou

Facebook @kenminundou

検索



QRコード